



第2章 まちづくりの基本理念と目標

2-1 まちづくりの基本理念

2-2 まちづくりの基本目標

2-3 重点プロジェクト



2-1 まちづくりの基本理念

本計画の上位計画である『小松島市第6次総合計画』では、目標とする将来都市像を「未来へ輝く 希望と信頼のまち こまつしま」としています。

総合計画においては、本計画が都市計画分野を担う“個別計画”として位置づけられることから、都市計画マスタープランにおいても小松島市第6次総合計画と将来像を共有し、その実現を都市計画の側面から支え、推進していきます。

キャッチフレーズ・テーマ（目標とする都市像）

未来へ輝く 希望と信頼のまち こまつしま

未来へ輝く

希 望

だれもが小松島市に住んでよかったと実感できるまち
世代を超えてやる気が持てるまち

信 頼

ひとりひとりがお互いを尊重できるまち
情報を共有し、共に考え、共に創るまち

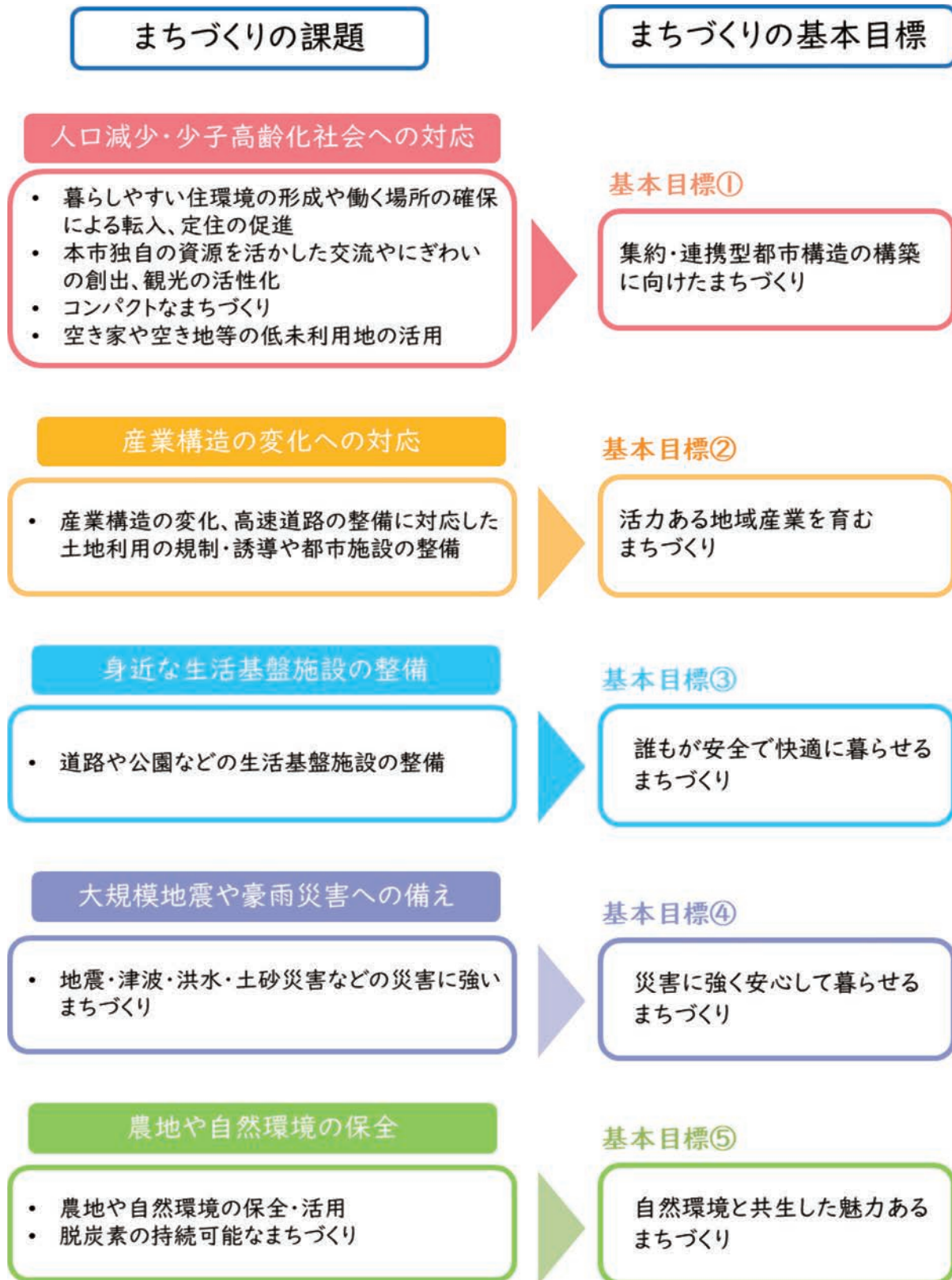
出典：小松島市第6次総合計画（R4年3月）

保育所の子どもたち（横須保育所）



2-2 まちづくりの基本目標

都市の課題を踏まえ、基本理念に基づいてまちづくりの目標を次のように設定します。



■まちづくりの基本目標

基本目標① 集約・連携型都市構造の構築に向けたまちづくり

様々な都市機能の集積を図ることで市民生活の利便性を高めるとともに、多様な特性を有する地域や拠点と有機的な交通ネットワークで連携することで、効率的で持続性の高いまちづくりを目指します。



基本目標② 活力ある地域産業を育むまちづくり

市民生活の安定と都市活力の向上を図るため、小松島市の“強み”を活かした産業の振興に向けた土地利用の規制・誘導や都市施設整備を進め、市民の生活や都市活力を支える地域産業を育むまちづくりを目指します。



基本目標③ 誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり

道路等の生活基盤施設の整備改善を進めるとともに、多様な住まい方・働き方が可能な都市環境の形成を進め、誰もが安全で快適に暮らし、地域の中で活躍することができるまちづくりを目指します。



基本目標④ 災害に強く安心して暮らせるまちづくり

自然災害から市民の生活と財産を守るため、ハード・ソフト施策の両面から防災・減災対策を進めるとともに、自助・共助・公助による共同の取組を強化し、災害に強く安心して暮らせるまちづくりを目指します。



基本目標⑤ 自然環境と共生した魅力あるまちづくり

良好な自然環境や農業生産環境を保全するとともに、都市活力向上に向けた計画的な土地利用を推進し、保全と活用のバランスがとれた魅力あるまちづくりを目指します。



2-3 重点プロジェクト

1) まちづくりの基本目標

基本目標① 集約・連携型都市構造の構築に向けたまちづくり

基本目標② 活力ある地域産業を育むまちづくり

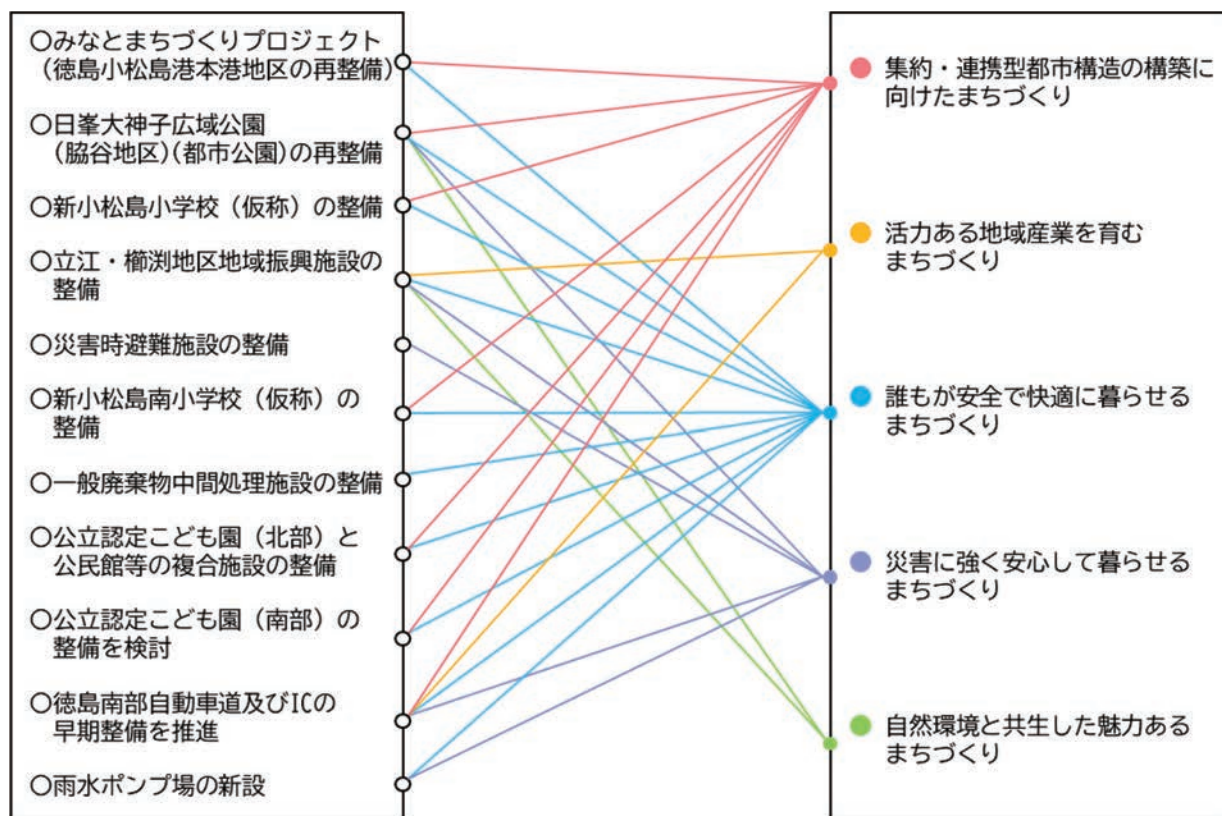
基本目標③ 誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり

基本目標④ 災害に強く安心して暮らせるまちづくり

基本目標⑤ 自然環境と共生した魅力あるまちづくり

2) 重点プロジェクト

「まちづくりの目標」を実現していくために、今後、重点的に取り組んでいく以下に示す項目を「重点プロジェクト」として位置付け、計画期間における積極的な取り組みと早期の実現を目指します。

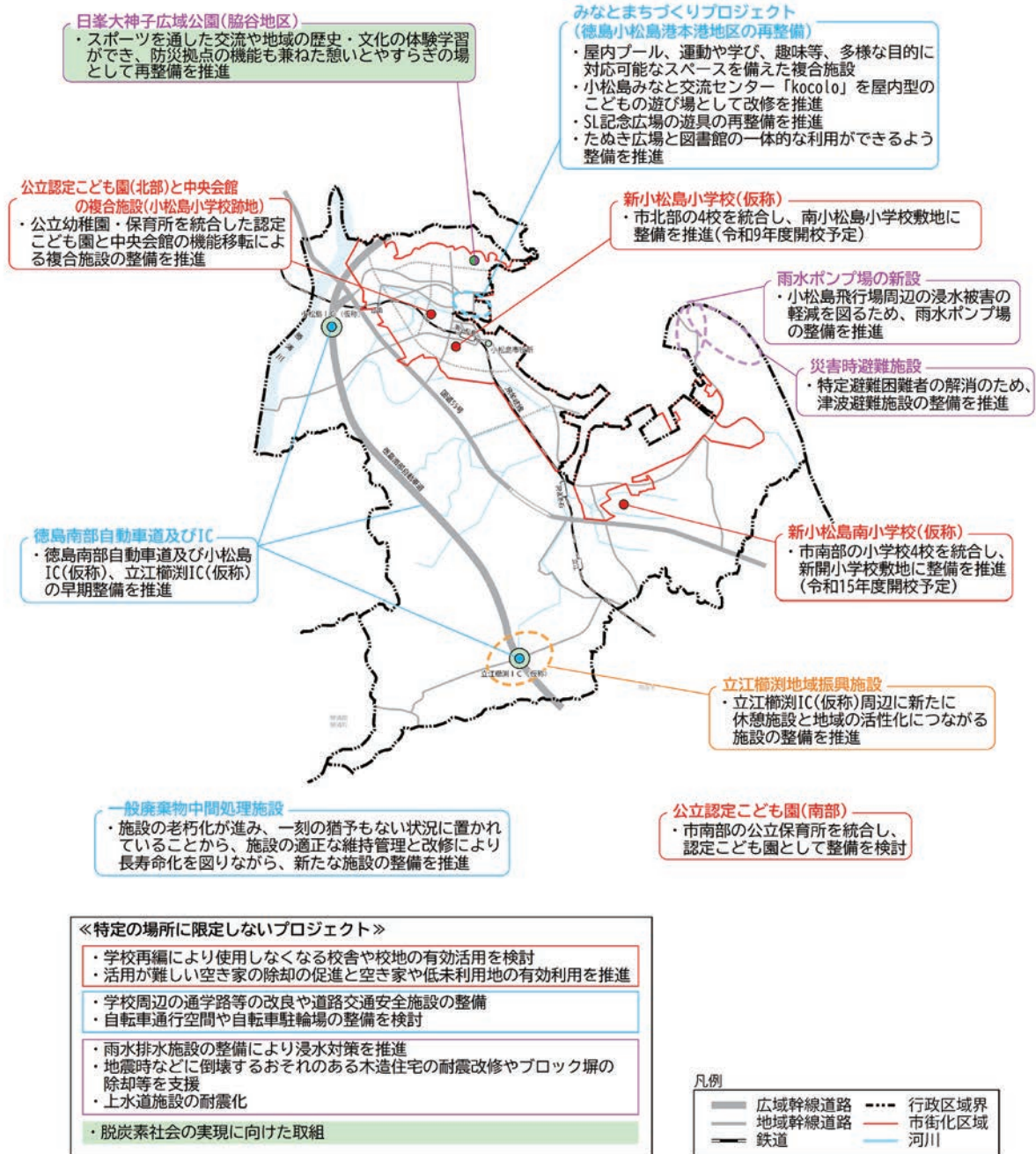


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3) 重点プロジェクト図

「重点プロジェクト」の実施箇所について、以下の図に示します。



4) みなとまちづくりプロジェクト



関連する基本目標

①集約・連携型都市構造の構築に向けたまちづくり ③誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり

①プロジェクトの基本的な考え方

かつてフェリーの就航等により小松島に活気をもたらした本港地区及び中心市街地の活性化を図るため、令和5年3月に「本港地区みなとまちづくり基本構想」を策定しました。

「本港地区みなとまちづくり基本構想」のまちづくりの視点として「人々が集い 交流し にぎわいと憩いをつなぐ みなとまち～新しいみなとまちを目指して～」を掲げ、本港地区と中心市街地において新たな賑わいの創出を目指します。

②具体的にすること

徳島小松島港本港地区は、海や港の公共空間、公園、多目的ホールなどの公共施設が集積しており、市民の心や暮らしを豊かにし、まちのにぎわいや市民の憩いをもたらすエリアとなっています。

本港地区の公共空間を活用し、屋内プールや屋内型の子どもの遊び場の整備、図書館、小松島ステーションパークの再整備を行い、新たな付加価値を創出することにより、その価値を十分に引き出し、人々の満足度や地域の魅力を向上させ、来訪者の増加、本港地区と中心市街地の回遊による地域全体の活性化に繋がります。

③具体的施策

- あらゆる世代が集い、交流できる場所として、天候や気候に左右されない屋内プール、運動や学び、趣味等多様な目的に対応可能なスペースを備えた複合施設の整備を図ります。
- 小松島みなと交流センター「kocolo」を屋内子ども遊戯施設として整備を図り、天候に左右されず、親子が安心して遊べる場を創出します。また、海に面した立地を活用したイベント開催や開放的な空間を形成します。
- 小松島ステーションパーク（都市公園）において、たぬき広場と図書館を連携させ、大人も子どもも共有して楽しめるレクリエーション空間を創出します。また、インクルーシブ遊具を SL 記念広場に設置し、誰もが遊べる場を創出します。
- 連続した歩行空間を整備することにより、居心地がよく、歩きたくなる、ウォーカブルなまちなかを創出します。

小松島みなと交流センター「kocolo」（イメージ）



屋内子どもの遊び場（イメージ）



5) 学校を核とした地域一帯のまちづくり

関連する基本目標

①集約・連携型都市構造の構築に向けたまちづくり ③誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり

①プロジェクトの基本的な考え方

本市では、義務教育の9年間を通し、小学校間、小・中学校間での連携を強化することはもとより、学校で学んだことを自分の人生や社会で生かし、生涯にわたり学び続けることができる子どもを育ていけるような、質の高い学びを提供するために、学校再編を実施します。

学校再編は、北部（小松島中学校区）と南部（小松島南中学校区）に分け、また、再編時期を前期（令和4年度～9年度）と後期（令和10年度～15年度）に設定し、進めることとします。

また、新たな学校づくりと併せて、交通安全対策施設を整備し、学校を核とした地域全体の魅力向上を図ります。

②具体的にすること

【学校再編】

■北部（小松島中学校区） 時期：令和4年度～9年度

小松島小学校・南小松島小学校・千代小学校・芝田小学校の4校を統合し、南小松島小学校の敷地に新たな小学校（新小松島小学校（仮称））を整備します。

小松島小学校



南小松島小学校



千代小学校



芝田小学校



また、北小松島小学校については当面存続することとし、将来的に新小松島小学校（仮称）に編入し、それまでの間については必要に応じて修繕を行います。

校舎築年数が50年を経過する児安小学校については、令和8（2026）年度から令和11（2029）年度頃に既存校舎全体を改修する工事を想定しています。

児安小学校



北小松島小学校



■南部（小松島南中学校区） 時期：令和10年度～15年度

立江小学校・櫛淵小学校・坂野小学校・新開小学校の4校を統合し、新開小学校の敷地に新たな小学校（新小松島南小学校（仮称））を整備します。

立江小学校



櫛淵小学校



坂野小学校



新開小学校



また、校舎築年数が50年を経過する和田島小学校については、令和8(2026)年度から令和11(2029)年度頃に既存校舎全体を改修する工事を想定しています。

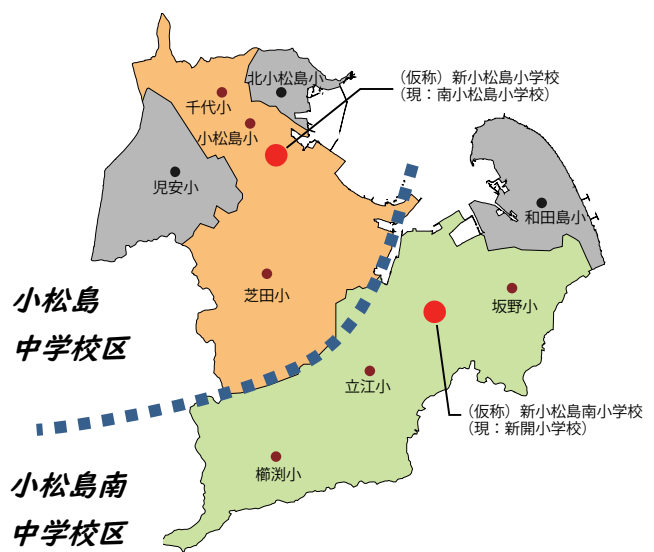
和田島小学校



立地適正化計画において、新たな小学校を誘導施設に位置づけます。

今後、市全体の学校再編の進捗を検証し、児童数の推移や財政事情等も踏まえながら、令和17(2035)年度頃を目途に、小松島市立学校再編実施計画の次期計画の策定に向けた見直しを進めます。

学校の位置



【学校周辺の通学路等の安全対策】

安全で安心して通学できる環境を実現するため、通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、交通安全施設の整備を推進します。

県道小松島佐那河内線 歩道整備



6) 日峯大神子広域公園(脇谷地区)の再整備



関連する基本目標

- ①集約・連携型都市構造の構築に向けたまちづくり
- ③誰もが安全で快適に暮らせるまちづくり
- ④災害に強く安心して暮らせるまちづくり
- ⑤自然環境と共生した魅力あるまちづくり

①プロジェクトの基本的な考え方

昭和28年に開設された日峯大神子広域公園は、園内の各施設の老朽化が著しく、施設の利用者が安全かつ安心して利用することが困難となったこと、時代とともに変化していく利用者ニーズに対応した公園整備が求められていること、また南海トラフ地震・津波発生時の防災拠点の確保が必要であることから、再整備を行います。

②具体的にすること

イベントや野球(硬式野球対応)、グラウンド内の芝を活用した他スポーツの利用など、多目的に利用できる多目的・運動エリアのほか、緑を感じ憩いや安らぎを得ることができる芝生広場エリア、芝生広場エリアと一体的な利用ができる高台広場エリア、自然を身近に感じながら散策などのレクリエーション活動、総合学習等に活用できる自然ふれあいエリア、自然の中で健康遊具によるトレーニングやウォーキング、休憩ができる健康エリアを整備します。

また、民話「阿波狸合戦」を題材に制作された映画の大ヒットを記念し、昭和31年に映画関係者や地元商工業者の協力により、本公園内に建築された金長さんを本公園の教養施設の核として、小松島の文化や歴史が学習できる文化・教養エリアなどを整備することにより、あらゆる世代が集う、憩いと安らぎのある空間を創出します。金長さんについては、平成28年度から本公園の再整備が進められるなかで、取り壊す計画が示され、存続の危機を迎えていましたが、市民が主体となり、金長さんの存続に向けた署名活動や改修費用を募るクラウドファンディング、改修工事が行われ、令和5年に金長さんの改修が完了しました。

大規模地震、津波などの災害時には、高台広場エリアを消防・救急等緊急車両の避難場所として活用し救援活動の拠点とするほか、復旧時には多目的・運動広場エリアをヘリコプターの降着場や救援物資の集積場として活用、復興時には仮設住宅の建設用地としての活用を図ります。

日峯大神子広域公園(脇谷地区)の整備イメージ



7) 立江・櫛淵地区地域振興施設(仮称)の整備促進



関連する基本目標

②活力ある地域産業を育むまちづくり ④災害に強く安心して暮らせるまちづくり

①プロジェクトの基本的な考え方

立江・櫛淵地区地域振興施設(仮称)の整備は、四国4県を8の字の高速道路ネットワークで結ぶ「四国8の字ネットワーク」をさらに強化するとともに、立江・櫛淵地区と高速道路の間のアクセス向上によってその交流圏を拡大することにより、本市の地域産業の活性化や交流人口の拡大、防災機能拡充等に寄与するものです。

地域振興施設の計画的な整備を着実に図っていくことで、地方創生の深化に繋がります。

②具体的にすること

立江・櫛淵地区に整備が予定されている立江櫛淵IC周辺の地区において、駐車場・トイレなどの休憩施設と道路情報・地域の観光情報などを提供する情報発信施設に加え、地域活性化につながる施設の整備を推進します。

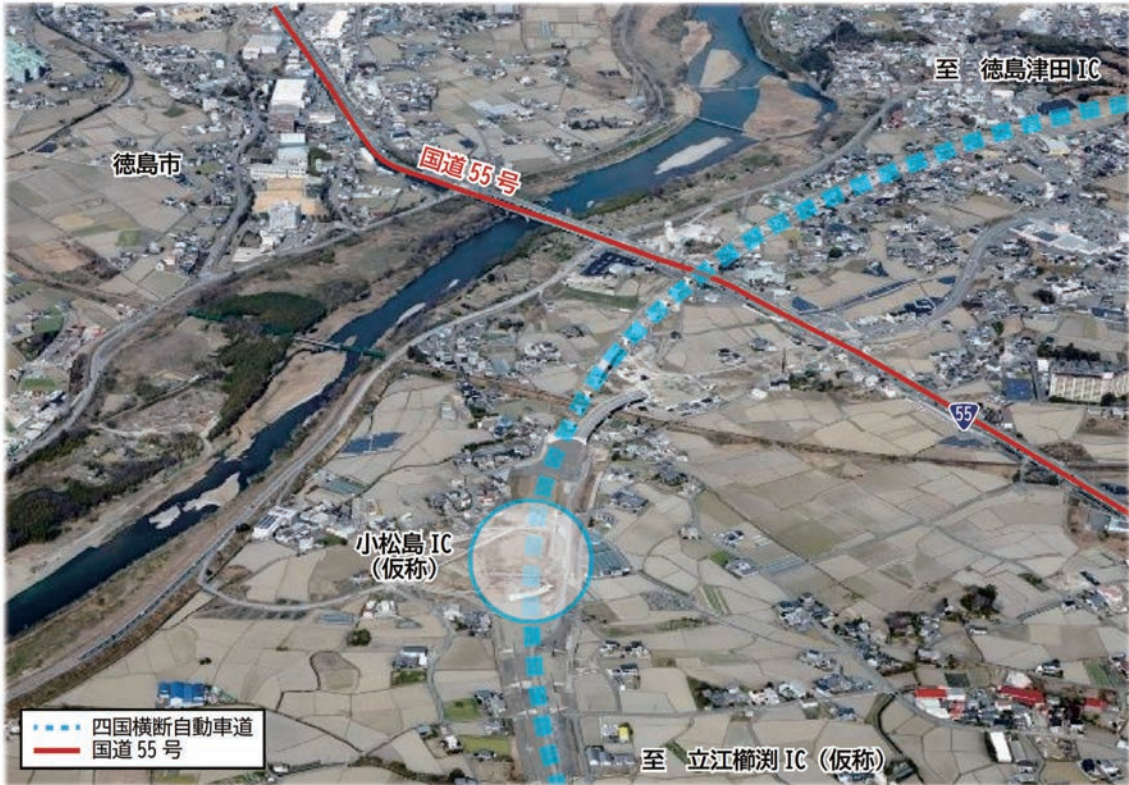
この地域活性化施設については、本地区ならびに本市独自の資源である豊かな自然環境・農林漁業・歴史伝統・観光などの地域資源を活用し、本地区ならびに本市における課題の解決と地域活性化につながる施設の整備を推進します。

具体的には、体験型農業施設、6次産業化施設、農家レストランなどの整備を検討します。

高速道路の整備イメージ



小松島 IC (仮称) 周辺整備状況



立江櫛淵 IC (仮称) 周辺整備状況



